受　験　番　号

国　　語

（100点　60分）

（2022年度Ａ－１）

注　意　事　項

1　試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

2　この問題冊子の表紙の受験番号欄に受験番号を書いてください。
　複数の受験番号がある場合、受験票に記載されているメイン受験番号を記入してください。

3　この問題冊子は表紙を除き、17ページです。

4　試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。

5　解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、正しく記入してください。

①　氏　　名　　欄　漢字氏名を記入してください。

②　科　目　名　欄　「**国語**」と記入してください。

③　受　験　番　号　欄　受験票に記載されているメイン受験番号を記入し、その下のマーク欄に、正しくマークしてください。

6　受験番号が正しく記入されていない場合は、採点されないことがあります。

7　解答は、解答用紙の解答マーク欄にマークしてください。
　例えば **20** と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の（例）のように**20の解答マーク欄の③にマーク**してください。

（例）

	解答マーク欄											
20	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⓪	⊖	⊕

8　問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいませんが、どのページも切り離してはいけません。

9　不正行為について

①　不正行為に対しては厳正に対処します。

②　不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が注意します。

③　不正行為を行った場合は、その時点で受験を取りやめさせ退室させます。

国

語

（解答番号 1 ～ 35）

第1問　次の文章を読んで、後の問い（問1～問10）に答えなさい。

[1]正岡子規は国家主義という明治の空気の中で生きていた。

二〇一七年（平成二十九年）春、神奈川近代文学館の「正岡子規展」の編集委員を務めたとき、展示の方針にしたのも子規が生きた明治の空気を蘇らせることだった。それまで子規といえば病床に寝たきりのまま文学で数々の業績をあげた「けなげな子規像」（ア）しかなかった。（　1　）

なぜ明治は国家主義の時代になったのか。江戸幕府がみずから鎖国を破って世界に門戸を開いた十九世紀が帝国主義の時代だったからである。（　2　）

産業革命後、ヨーロッパやアメリカの列強諸国は工業原料と商品市場を求めて世界中に植民地をカイタク[a]していった。日本が開国した十九世紀半ば、そのモウイ[b]はユーラシア大陸の東の果てにまで及び、大国中国もアヘン戦争（一八四〇―四二）でイギリスに敗れ、列強にサンショク[c]されはじめていた。（　3　）

いまや列強の狩場となった東アジアの小さな島国が外国の植民地とならず独立国として生き残る道は、天皇から庶民まで一丸となって国家建設の役に立つ「有為の人」（注1）になるしかなかった。海外に対する帝国主義は国内での国家主義を生み出す。（　4　）

子規は慶応三年（一八六七年）九月、伊予松山藩士の家に生まれた。翌四年九月に元号が明治に改まるから、子規の満年齢は明治の年数と一致する。まさに「明治の子」だった。いいかえれば、生まれたときから国家主義という明治の空気の中で育てられた人である。（　5　）

子規は子供のころ、政治家になって明治の新国家建設に役立ちたいと夢みた。しかし賊藩（注2）の子弟であり、何よりも病弱な体がそれを許さなかった。そこで子規は文学の世界で「有為の人」となり、国家建設のために働こうと決意する。子規の業績とされるものはみな子規のこの悲願から生まれた。

子規はまず俳句大衆のために「写生」という誰でもできる方法を唱える。それは西洋絵画のデッサンを日本風に焼き直したものであり、西洋文明を進んで吸収せよという明治政府の文明開化セイサク[d]の波に乗ったものだった。

晩年、短歌の革新に乗り出した子規は和歌の聖典とされてきた『古今和歌集』をこき下ろし、『万葉集』を賛美する。

貫之は下手な歌よみにて古今集はくだらぬ集に有之候。（『再び歌よみに与ふる書』）

新聞「日本」に連載した『再び歌よみに与ふる書』（明治三十一年、一八九八年）のボウトウ[e]で引きずり出される紀貫之は『古今和歌集』撰者の筆頭である。明治維新は文化大革命だった。

[2]じつはこれにも裏がある。明治政府は新時代の天皇親政のモデルをヨーロッパの王国だけでなく、日本の過去の政治形態にも求めた。ところが平安時代

は摂関家の藤原氏が、鎌倉時代以降は武家の幕府が政治を牛耳ってきた。やっと探し出したのが奈良時代の聖武天皇時代の政府だった。

子規はそれと足並みを揃えるように平安時代の『古今和歌集』をけなし、奈良時代の『万葉集』をほめたたえたのだ。子規にとってそれが文学の世界で新国家建設の役に立つ「有為の人」となることだった。

元号が明治に改まる半年前の慶応四年（一八六八年）三月、十六歳の明治天皇が発表した新国家の施政方針「五箇条の御誓文」には「官武一途庶民ニ至ル迄、各其志ヲ遂ゲ、人心ヲシテ倦マザラシメン事ヲ要ス」の一条がある。

敗戦直後、首相の吉田茂は国会でこれを引き合いに出して日本はもともと民主主義の国だったかのような答弁をした。大学の憲法の講義では「戦後の個人主義を先取りした開明的な思想である」という解説を聞いた記憶がある。しかしどちらも国家主義という明治の空気を無視した、歴史の戦後的な塗り替えである。

個人の能力の総計が国力なら、個人は国家のためにあった。「御誓文」は戦後の個人主義の先取りでも、日本が昔から民主主義の国だったわけでもない。日本が列強に立ち向かうには日本人はみな「有為の人」にならなければならないという国家主義の高らかな宣言だった。

明治の群像小説『坂の上の雲』を書いた司馬遼太郎もそこを見落としていたのではなかったか。司馬は明治の指導者たちを主人公にした数々の小説を書いた。広く知られた国民作家であり、著作で展開される「司馬史観」は実際の歴史そのものであるかのように思われてもいる。

しかし[3]「司馬史観」には盲点がある。司馬は開明的な明治の指導者たちを手放しで賛美したために、彼らが呼吸していた明治の空気、彼らを動かしていた国家主義という空気を過小評価してしまったのではないか。

『坂の上の雲』の前半は子規を中心にした明治のまぶしい青春小説なのに、子規の死（明治三十五年、一九〇二年）を峠にして後半は日露戦争（明治三十七―八年、一九〇四―〇五年）をめぐるキナ臭い戦争小説に変わる。

司馬自身、第二次世界大戦中、軍隊で散々イヤな思いを味わった。明治の輝かしい精神がなぜ昭和の狂気に変わったのか。司馬は『坂の上の雲』を書きながら明治の変貌に納得できなかった。その挙句、勝てるはずのないロシア帝国に勝ってしまったために、それまでひたむきだった日本人が驕[4]れる日本人に変わってしまったという日本人突然変貌説に与せざるをえなくなる。

もし子規や秋山好古[注3]、真之兄弟ら明治の青年たちを動かしていた国家主義という枠組みを正当に評価していれば、国のために「生きる」という明治の国家主義が、国のために「死ぬ」という昭和の国粋主義へ変化してゆく過程がありありと見えたはずである。

昭和の狂気は明治の青春が変質したものだった。この観点に立っていれば、司馬の描く明治の指導者たちはさらに陰影の深いものになっていたにちがいない。

5 糸瓜咲て痰のつまりし仏かな　子規

子規の命が絶えたのは明治三十五年（一九〇二年）九月十九日未明一時。前日午前、病床で抱き起こされながら絶筆となる糸瓜三句をしたためた。

痰一斗糸瓜の水も間にあはず
をとゝひのへちまの水も取らざりき

糸瓜の水とは糸瓜の茎を切ってとる水で痰切りの効能があるとされた。

その五日前、高浜虚子に口述筆記させた「九月十四日の朝」という短い文章がある。子規は病床で顔も動かせぬままガラス戸の外の庭を眺めている。

窓の前に一間半の高さにかけた竹の棚には葭簀(注4)が三枚許り載せてあつて、其東側から登りかけて居る糸瓜は十本程のやつが皆瘠せてしまうて、まだ棚の上迄は得取りつかずに居る。花も二三輪しか咲いてゐない。正面には女郎花が一番高く咲いて、鶏頭は其よりも少し低く五六本散らばつて居る。秋海棠は尚衰へずに其梢を見せて居る。余は病気になつて以来今朝程安らかな頭を持て静かに此庭を眺めたことは無い。

現代と同じ口語体の文章であることに注意してほしい。日本語の書き言葉は当時まだ江戸時代の文語体が主流だったが、子規が話したことを別人が書き留める口述筆記によって、新しい口語体が六尺(注5)の病床から奇跡的に誕生しようとしていた。これが親友の夏目漱石に受け継がれ、現代の文章へと発展してゆく。

（長谷川櫂「痰のつまりし仏かな」による）

（注１）有為＝能力のあること。役に立つこと。
（注２）賊藩＝朝敵となった藩。松山藩はその一つ。
（注３）秋山好古・真之兄弟＝兄の好古（一八五九～一九三〇年）は陸軍軍人で教育家、弟の真之（一八六八～一九一八年）は海軍軍人。ともに日露戦争で勲功をあげた。正岡子規と同郷である。
（注４）葭簀＝「葭」は水辺に生えるイネ科の植物。「葭簀」はそれを編んで作ったすだれに似たもの。
（注５）六尺の病床＝正岡子規には『病床六尺』という随筆があり、そこには、死が間近に迫る寝たきりの日常の細事や俳句、スケッチ画が淡々と記されている。

問1　傍線部a～eのカタカナにあたる漢字と同じ漢字を含むものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

〔解答番号 1 ～ 5 〕

a　カイタク　1

① コウタクのある布地。
② 台所のショクタク。
③ 業務をイタクする。
④ カンタクして農地を広げる。
⑤ 服を井戸水でセンタクする。

b　モウイ　2

① イギョウを成し遂げる。
② ケンイに屈する。
③ イモノの鍋。
④ 被災者をイモンする。
⑤ イリョウに従事する。

c　サンショク　3

① 弁当をジサンする。
② ショウサンのある試合。
③ サンビを極める。
④ 大企業のサンカに入る。
⑤ ヨウサン業を営む。

d　セイサク　4

① 公園をサンサクする。
② 時代サクゴの考え。
③ 労働者をサクシュする。
④ シサクに耽(ふけ)る。
⑤ 文章をテンサクする。

e　ボウトウ　5

① 将来がユウボウな青年。
② ボウシをかぶる。
③ ボウケン物語を読む。
④ ビタミンがケツボウする。
⑤ ボウチュウ閑あり。

問2　傍線部1「正岡子規は国家主義という明治の空気の中で生きていた」とありますが、そのような正岡子規に関する説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 6 〕

① 正岡子規は政治家になって明治の新国家建設の役に立ちたいと願っていたのに、その志なかばで文学者の道へと転向した。
② 正岡子規はヨーロッパやアメリカの列強諸国の帝国主義に激しい義憤を感じて、国家主義者として生きる道を選んだ。
③ 正岡子規は国家主義という明治の空気を吸いながらも、西洋文明に共感を覚えて俳句と短歌の革新運動に身を投じた。
④ 正岡子規は明治の新国家建設に役立ちたいという夢を、文学の世界で尽力することによって実現しようとした。
⑤ 正岡子規は世の中を支配する国家主義という風潮に背を向け、病床に寝たきりのまま文学で輝かしい業績をあげた。

問3　傍線部ア「けなげな」、イ「驕れる」の意味として最も適当なものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。〔解答番号 ア＝ 7 、イ＝ 8 〕

ア「けなげな」
① 堅実な
② 見事な
③ 真摯（しんし）な
④ 病弱な
⑤ 殊勝な

イ「驕れる」
① 怠惰な
② 傲慢（ごうまん）な
③ 悠長な
④ 卑怯な
⑤ 辛辣（しんらつ）な

問4　傍線部2「これ」の指示内容として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 9 〕

① 正岡子規が俳句大衆のために「写生」という誰でもできる方法を唱えたこと
② 晩年、正岡子規が短歌の革新に乗り出したこと
③ 正岡子規が『古今和歌集』をこき下ろし、『万葉集』を賛美したこと
④ 正岡子規が新聞「日本」に『再び歌よみに与ふる書』を連載したこと
⑤ 明治維新が文化大革命だったこと

問5　傍線部3「『司馬史観』には盲点がある」とありますが、その具体的な説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 10 〕

① 司馬遼太郎は、明治の国家主義が昭和の国粋主義へと一変したわけではなく、前者がしだいに後者へと変質していった点を見逃している。
② 司馬遼太郎は、明治の空気が国家主義だったことを無視し、それが戦後の個人主義や民主主義を先取りしたものであるかのように誤解している。
③ 司馬遼太郎は、明治の指導者たちを主人公にして、それが実際の歴史であるかのように誤解を招くような数々の小説を書いた。
④ 司馬遼太郎は、軍隊で散々イヤな思いを味わったために、明治の輝かしい精神が昭和の狂気に変わった理由を見抜けなかった。
⑤ 司馬遼太郎は、明治の指導者たちを動かしていた国家主義という空気を過小評価する一方で、昭和の国粋主義を過大評価していた。

問6　傍線部4「与せざるをえなくなる」の本文中での言い換えとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 11 〕

① 反対の意を表明した
② 同意するしかなかった
③ 我が意を得たりと思った
④ 反論することができなかった
⑤ 異を唱えようとはしなかった

問7 傍線部5「糸瓜咲て痰のつまりし仏かな」の句について、五人の生徒が意見を述べました。筆者の考えに**反しているもの**を、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔**解答番号** **12**〕

① Aさん　「九月十九日未明」とあるように、「糸瓜」が季語で、季節は秋だね。「明治の子」として亡くなった子規の思いが切々と伝わってくる気がするよ。

② Bさん　うん、「有為の人」として生きようとした子規の絶筆となった句の一つだね。「痰のつまりし」とあるから、のどに痰が詰まって苦しみながら死んだんだ。

③ Cさん　「仏」というのは「遺体」という意味だから、死の床にあった子規が自分を「仏」と表現したんだね。子規の諧謔（かいぎゃく）的で反骨的な精神がよく出ているよ。

④ Dさん　なるほど。この句は糸瓜が咲いていて、その前に痰が詰まって死んだ自分の遺体が安置されているという意味なんだ。「有為の人」のやるせない思いを感じるね。

⑤ Eさん　そうだね。子規は最期の時まで明治の新国家建設に役立ちたいと願っていたと思うよ。それが病気のせいで成し遂げられなかった、その無念さは痛いほどわかるよ。

問8 本文から次の文が脱落しています。本文中の（　1　）～（　5　）のどこに戻すのが最も適当ですか。後群の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔**解答番号** **13**〕

帝国主義と国家主義はコインの表と裏だった。

①（　1　）　②（　2　）　③（　3　）　④（　4　）　⑤（　5　）

問9 正岡子規と夏目漱石の作品を、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。〔**解答番号**　子規＝ **14** 、漱石＝ **15** 〕

① 山の音　② 行人　③ みだれ髪　④ 一握の砂　⑤ 墨汁一滴　⑥ 青年

問10　本文の内容と**合致しないもの**を、次の①～⑥のうちから二つ選びなさい。（解答の順序は問いません。）〔**解答番号** 16 ・ 17 〕

① 小さな島国である日本が、植民地にならず生き残ることができたのは、国民がこぞって国家建設に励んだからである。

② 子規は、「明治の子」であり、明治政府の新国家建設に役立ちたいと夢みたが、それは死ぬまで果たせない夢物語であった。

③ 子規は、俳句大衆のために西洋絵画のデッサンを日本風に焼き直した「写生」という方法を編み出した。

④ 子規が『古今和歌集』をこき下ろし『万葉集』を称賛した背景には、明治の国家主義の空気がある。

⑤ 明治から昭和へと推移していく過程を、国家主義から国粋主義への質的な変化とする見方も存在する。

⑥ 司馬遼太郎は明治の輝かしい精神が昭和の狂気に変わった理由を、明治の国家主義の空気に見出していた。

第2問　次の文章を読んで、後の問い（問1～問11）に答えなさい。

ものが生み出される瞬間に興味がある。創造の過程では、いったい何がおこるのだろう。

芸大の大学院生だったころ、詩人の谷川俊太郎さんの特別講義を受ける機会があった。音楽学部の授業だったので、詩の朗読はもちろん、CDラジカセをかけて生歌も披露[a]してくれた。かざらないけれど温かい人柄がにじみでていて、教室じゅうがすぐに心をつかまれてしまった。質問の時間があったので、わたしも詩が生まれる瞬間についてたずねてみた。

「それはね、なんにもない、からっぽのところから、[1]ぽっと出る。お風呂のなかでおならをするみたいに。自分が無になっているとき、座禅しているときみたいにね、そんなときにぽっと出てくる。頭から入っちゃうようなのもあるけど、そういうのは、やっぱりよくないんだよね」

とても腑に落ちる言葉だった。頭で考えるのではなく、からっぽのところからぽっと出る。それこそ、頭でわかるのではなく、すっと腑（内臓）に落ちた気がした。そうか、谷川さんの詩がからだに響く感じがするのは、そのせいかもしれないとも思った。

アーティストが制作について語るとき、この「考えない」というキーワードがたびたび出てくる。

（　イ　）、絵本作家の荒井良二さん。テレビのインタビューのなかで「はじめから頭で考えない。線を描いたり、消したり。そのなかからぽっと生まれる」とおっしゃっていた。頭で考えたものを描くのでなく、適当に手を動かして生まれる偶然の軌[b]跡にゆだねる。そこに想像力を働かせて描く様子は、ピカソの制作風景とも重なる。

画家の横尾忠則さんも、「どういう描き方がいいかを考えるのではなく、対象自体が求める表現を受信するまで待ち続ける」のだそうだ。自分の力でコントロールしようとするのではなく、どこか受け身の姿勢が必要なのかもしれない。

黒田[注1]さんも、自分の絵は[2]やりこめる絵ではないという。置かれた状況で描くものが変わる。机の上のでこぼこや汚れ、風でとんできた木の葉など、偶発的なものをどんどんとりいれる。本人にも何が生み出されるかわからないどきどきがあって、毎日、毎日、描きつづけているのに、描くことがとにかく楽しいという。

「おおげさに言えば、神さまからのメッセージみたいなもの。そんなに大それたものだとは思っていないけど」

その後も、黒田さんが実際に描いている様子を何度か拝見しているが、音楽に合わせたライブ・ペインティングのときなど、たしかにちょっと憑依（ひょうい）しているみたいに見える。描いているときのことは、[3]無我夢中で覚えていないらしい。

先史時代の洞窟壁画が描かれた背[c]景には、儀式的なものが関わっているともいわれる。もしかしたら、黒田さんのような人が絵を描いていたんじゃないかとひそかに思っている。

建築家の藤森照信さんも「考えない」人のひとりだ。屋根からニラや松の木を生やした家、宙に浮いたお茶室など、子ども心をくすぐられるようなユニークな建築物を設計している。

やはり学生のころに講演を聞いたとき、最初に設計した神長官守矢史料館(注2)のエピソードが印象的だった。枝つきの柱がにょきっと屋根を突き抜けている建物だ。設計で柱を描いているときに、たまたま勢いあまってはみ出してしまった。それがおもしろかったので、本当につくってしまったのだという。

ここで並べた「考えない」人たちに共通して、そのときにおこった偶然を楽しんでとりいれるという柔軟[d]な姿勢がありそうだ。（　ロ　）、自分の頭のなかから出てくる考えだけで制作しようとすると、どうしても癖やパターンが出てきてしまって、枠からぬけだせないということがあるかもしれない。

そして[4]「考えない」人たちは、むしろふだんは人よりも「考える」人たちのようにも思える。

たとえば、藤森さんは、もともと建築史が専門で、見て、調べて、考えるということをひたすらやってきたそうだ。設計をするようになっても、まずは、他のどんな建築にも似ないようにと頭で考える。[5]そこに（　　）な何かがくわわったとき、「ちょっと越える」のだという。

最近の講演でも「発酵させているものを出すようなものだと思っている。そこに光をあてると、菌が死んでしまうような気がする。（　ハ　）考えないようにしている」とおっしゃっていた。

いろいろなものに目を向け、いろいろなことを感じ、いろいろなことを考える。そうして蓄えられたたくさんの材料が、その人のなかでまじりあい、醸される。そこに外からちょっとした刺激があると、さらに発酵が進んで、ぽっと出てくるようなものなのかもしれない。

それは科学者の発見とも通じそうだ。アルキメデス(注3)の「ユリイカ」や、ケクレ(注4)のベンゼン環など、発見は、しばしばお風呂や夢のなかでおこる。とにかく考えて、考えて、考え尽くした先の一瞬の「考えない」、無の瞬間なのだろう。

（　ニ　）、「考える」とは、考えのもとを一つひとつ整理して枠におさめていくような行為でもある。似たものを集めてカテゴリー化[6]し、その関係性を整理する。（　ホ　）、そうして枠におさめていくだけでは、新しいものは生まれない。枠からはみ出すような、枠をこわすようなきっかけが必要だ。

天才でなくても、なにかアイデアを練るときには、机の前でうなるのではなく、一度寝たり、外を散歩したりする方がいいとよくいわれる。いま原稿を書きながらも実感していることだ。

テーマに関連したキーワードやエピソードを書き散らかしてから、それを整理していく。最初は、あまりの散らかりようにに、放り出したくなることも多い。でも、地道に「考える」を続けるうちに、少しずつその置き場所が見つかっていく。ただ、[7]それだけだと、なんとなくおさまりがつかないことがある。

そういうときは、一度頭のなかをざっくりとかき混ぜたくなる。時間があれば、しばらく「考えない」[8]ことにして原稿を寝かせておくが、締め切りに追われているときはそうもいかない。少し散歩に出て頭のなかの空気を入れ替えたり、さかだちをして頭をさかさまにしてみたりすることもある。

さかだちぐらいで本当に頭のなかがかき混ぜられたら大変だが、ふとした瞬間に、ばらばらだったものをつなぐ「！」が見つかることがある。意外なも

のがむすびつくと、パズルのカギとなるピースが見つかるときのように、すっと全体が見えてくる。それが自分でも見たことのない風景だったりすると、こっそりガッツポーズしたくなるぐらいうれしい。

（齋藤亜矢「考える、考えない」による）

（注1）黒田さん＝イラストレーターの黒田征太郎（一九三九年～）のこと。本文の前段に、筆者が黒田氏のアトリエを訪ねたことが記されている。

（注2）神長官守矢史料館＝長野県茅野（ちの）市にある守矢家の文書を保管・展示する博物館。守矢家は、明治初期まで諏訪大社上社の神長官を務めた。

（注3）アルキメデスの「ユリイカ」＝アルキメデス（古代ギリシアの数学者・物理学者）は、入浴中に金の純度を計る方法を思いついた時、ギリシア語で「ユリイカ（私は発見した）！」と叫んだという。

（注4）ケクレ＝一八二九～一八九六年。ドイツの化学者。夢の中でベンゼンの分子構造を思いつき、のちそれを六角形の環状構造として論文にまとめて発表したとされる。

問1 傍線部a～dの漢字と同じ読みをする漢字を含むものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

〔**解答番号** a＝ **18** 、b＝ **19** 、c＝ **20** 、d＝ **21** 〕

a 披露（① 路頭 ② 絹布 ③ 歴程 ④ 翻弄 ⑤ 諭旨）

b 軌跡（① 時宜 ② 休暇 ③ 亀裂 ④ 懇願 ⑤ 腰椎）

c 背景（① 輩出 ② 封入 ③ 方丈 ④ 更新 ⑤ 隔世）

d 柔軟（① 挿話 ② 民需 ③ 収穫 ④ 入念 ⑤ 鈍重）

問2 空欄（ イ ）～（ ホ ）を補うのに最も適当な言葉を、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。（同じものを二度以上選んではいけません。）〔**解答番号** イ＝ **22** 、ロ＝ **23** 、ハ＝ **24** 、ニ＝ **25** 、ホ＝ **26** 〕

① だから ② たとえば ③ でも ④ そもそも ⑤ 逆にいえば ⑥ いわば

問3 傍線部1「ぽっと出る」とありますが、具体的にはどういうことですか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔**解答番号** **27**〕

① くっきりと鮮明に浮かび上がる。
② 前ぶれもなく不意に訪れる。
③ 何度も繰り返し姿を現わす。
④ ぼんやりと頼りなく浮かび出る。
⑤ 一挙に激しく襲ってくる。

問4 傍線部2「やりこめる絵」とありますが、「絵をやりこめる」とは、どういうことを言うのですか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔**解答番号** **28**〕

① やりかけの絵をとにかく完成させる。
② 自分の力で絵をコントロールする。
③ 偶然の助けを借りて絵を製作する。
④ 頭で考えずに絵を描く。
⑤ 大家を越えるようないい絵を作る。

問5　傍線部3「無我夢中で覚えていないらしい」の「らしい」と意味が同じものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 29 〕

① 毎晩物音が絶えず、屋根裏にネズミか何かがいるらしい。
② 巨漢の男はわざとらしい咳払いをした。
③ ある経済学者によると、今年は景気がよくなるらしい。
④ 子猫の愛らしいしぐさがとても可愛い。
⑤ この界隈は旧市街らしい風情を感じる。

問6　傍線部4「『考えない』人たちは、むしろふだんは人よりも『考える』人たちのようにも思える」とありますが、筆者は「考える」「考えない」についてどのように考えていますか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 30 〕

① 「考えない」でいることよりも「考える」ことの方が有意義であり、ためになる。
② 一定時間集中して「考える」ことが習慣として定着すると、「考えない」でいることがむしろ苦痛になる。
③ 「考えない」といっても、それはやはり「考える」ことの上に成り立っている。
④ 頭を柔軟にするために、「考える」ことよりも「考えない」ことを優先すべきである。
⑤ 「考える」にしても「考えない」にしても、どちらも過度は禁物で適度に行わねばならない。

問7　傍線部5「そこに（　　）な何かがくわわったとき」の空欄（　　）を補うのに最も適当な言葉を、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 31 〕

① 偶発的　② 儀式的　③ 印象的　④ 刺激的　⑤ 専門的

問8　傍線部6「カテゴリー化し」の言い換えとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 32 〕

① 分有し　② 分析し　③ 分割し　④ 分配し　⑤ 分類し

問9　傍線部7「それだけだと、なんとなくおさまりがつかない」とありますが、「おさまりをつける」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 33 〕

① テーマに関連したキーワードをとりあえず書き連ねてみること
② ばらばらだったものを関連づけて、全体が見通せるようにすること
③ 考えのもとになる事柄を整理し、枠に収めていくこと
④ 考えをまとめるために、机の前で熟考を重ねること
⑤ 今の環境に安住せずに、新しい事柄に挑戦を続けること

問10　傍線部8「頭をさかさまにしてみたりする」とありますが、何をしようとしているのですか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 34 〕

① 固定的な思考の枠組みから自由になろうとしている。
② 仕事の合間に気分転換を図ろうとしている。
③ 思考を重ねる苦痛な作業から逃れようとしている。
④ 考えを練り直し、新しいやり方を見つけようとしている。
⑤ 新しい発見に向けて、気持ちを落ち着かせようとしている。

問11 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔**解答番号** **35**〕

① 寝かせていた考えに定期的に刺激を与えることによって、しっかりとした思考のカテゴリーが形成されていく。

② 独創的な建築をする人は、過去の資料を調べ、類似の建築がないことを事前に確認している。

③ 詩は頭で作るものではないと謙遜する詩人の言葉に、飾らない人柄がにじみ出ていた。

④ 黒田さんは何が生まれてくるかわからない状態にどきどきしながらも、従順に神のメッセージを受け入れていた。

⑤ 芸術でも科学でも新たなものを創造する人々は、偶然に到来するユニークな発想を柔軟に受けとめている。